資料 1

「2024年度 北九州市地域福祉に関する市民意識調査」の分析結果（第2次）

福岡県立大学　村山浩一郎

報告の内容

１　社会的孤立について

２　様々な課題を抱える人たちについて

３　身近な地域での支え合いについて
～情緒的・情報的サポートと道具的サポートの比較～

４　地域福祉活動の課題について
～まちづくり活動との比較～

1　社会的孤立について

社会的孤立の類型

○みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社（2021）「社会的孤立の実態・要因等に関する調査分析等研究事業報告書」（厚労省社会福祉推進事業）では、社会的孤立を、①会話欠如型孤立、②受領的サポート欠如型孤立、③提供的サポート欠如型孤立、④社会参加欠如型孤立に区別している。

○ここでは、**①会話欠如型孤立、②受領的サポート欠如型孤立**をとりあげる。

社会的孤立の類型

表１－１　社会的孤立の類型

孤立の類型		内容
社会的交流		会話の頻度、家族・親族・友人等との接触の欠如
社会的サポート【受領】		他人からの支援（サポート）を受けることの欠如
	道具的（物理的）	困ったときに頼りにできる人の欠如（病気の時の看病、金銭の援助、日常の手助けなど）
	情緒的（心理的）	悩みごとの相談にのってくれる人、寂しい時の話し相手などの欠如
社会的サポート【提供】		他人への支援（サポート）を与えることの欠如
	道具的（物理的）	困ったときに手助けをする相手の欠如（病気の時の看病、お金の援助、日常の手助けなど）
	情緒的（心理的）	悩みごとの相談にのってあげる人、寂しい時の話し相手になるなどの欠如
社会参加		組織・活動（町内会、スポーツ・趣味の会など）への参加の欠如

出典：みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社（2021）

北九州市における「会話欠如型孤立」

表１－２　北九州市における「会話欠如型孤立者」

	全体	2週間に1回	1か月に1回	ほとんど話をしない	計
会話欠如型孤立者	1,638	70	89	223	382
	回答者全体比	4.3%	5.4%	13.6%	23.3%

○上記報告書では、「①会話の欠如型孤立」を、人との会話が**「２週間に１回以下」**しかない状態と定義している。本調査の「問３あなたは普段どの程度、人と会話や世間話をしますか」で「2週間に1回」「1か月に1回」「ほとんど話をしない」を選択した回答者が「会話欠如型孤立」に該当し、以下の表1－2のとおり、**回答者の23.3%が「会話欠如型孤立」の状態にある**ことになる。

表1-2は、北九州市における会話欠如型の孤立とみることはできない

◯会話欠如型の孤立に関する設問は「問３ あなたは普段どの程度、人と会話や世間話をしますか。」であったが、問３は【地域での関係性について】という設問群の中の１つであり、直前の設問は「問２ 下記のうち、あなたがお住まいの地域で行っている交流はどれですか。」というものであった。

◯そのため、多くの回答者が問３を「**地域の人**」との会話や世間話」と理解したと思われる。表1-2で会話欠如型の孤立とした382人のうち、62.8％が有業者であり、40.3％が日中フルタイムで働いていると回答したことからも裏付けられる。

◯したがって、残念ながら、表1-2の結果を北九州市における会話欠如型の孤立のデータとみることはできない。

受領的サポート欠如型孤立の定義

表１－３「受領的サポート欠如型孤立者」の定義

利用する設問	選択肢	孤立の定義
あなたは次に挙げる（１）～（９）の事柄で頼れる人はいますか。 （１）子どもの世話や看病 （２）（子ども以外の）介護や看病 （３）重要な事柄の相談 （４）愚痴を聞いてくれること （５）喜びや悲しみを分かち合うこと （６）いざという時のお金の援助 （７）日頃のちょっとしたことの手助け （８）家を借りる時の保証人を頼むこと （９）成年後見人・保佐人を頼むこと	「いる」 「いない」 「そのことでは人に頼らない」 （１～９の各項目について回答）	【広義】 ９項目の事柄のすべての設問について「（頼れる人は）いない」「そのことでは人に頼らない」のいずれかを選択
		【狭義】 ９項目の事柄のすべての設問について「（頼れる人は）いない」を選択

出典：みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社（2021）

北九州市における「受領型サポート欠如型孤立」

表１－４　北九州市における「受領型サポート欠如型孤立者」

	全体	男性	女性	その他	無回答	計
広義の受領型サポート欠如型孤立者	1,638	28	10	1	0	39
	回答者全体比	1.7%	0.6%	0.1%	0.0%	2.4%
	孤立者内構成比	71.8%	25.6%	2.6%	0.0%	100.0%
狭義の受領的サポート欠如型孤立者	1,638	16	6	0	0	22
	回答者全体比	1.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.3%
	孤立者内構成比	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%

○「受領的サポートの欠如型孤立」に関する本調査の項目は、「問９次に掲げる事柄で頼れる人はいますか」である。表1-4のとおり、本調査の結果では、**広義の受領型サポート欠如型孤立者は2.4%、狭義の受領型サポート欠如型孤立者は1.3%**であった。

受領的サポート欠如型孤立の属性と推計値

○受領的サポート欠如型孤立の属性

表１－５「受領型サポート欠如型孤立者」の属性

	高齢者	男性	1人暮らし
広義の受領的サポート欠如型孤立	69.2%	71.8%	33.3%
狭義の受領的サポート欠如型孤立	68.2%	72.7%	36.4%

○北九州市全体の推計値

表１－６「受領型サポート欠如型孤立者」の推計値

	出現率	市の人口（人） 2026年4月1日時点	推計値（人）
広義の受領的サポート欠如型孤立	2.4%	898,668	21,568
狭義の受領的サポート欠如型孤立	1.3%	898,668	11,683

２　様々な課題を抱える人たち

若い世代は「経済的に困っている」人が多い

表２－１　現在困っていること（年代別）

	全年代（1624）		20～39歳（439）		40～64歳（497）		65歳以上（688）	
子育てのこと	57	3.5%	29	6.6%	24	4.8%	4	0.6%
健康のこと	193	11.9%	47	10.7%	41	8.2%	105	15.3%
障害のこと	87	5.4%	27	6.2%	21	4.2%	39	5.7%
介護のこと	87	5.4%	8	1.8%	31	6.2%	48	7.0%
引きこもりのこと	39	2.4%	15	3.4%	12	2.4%	12	1.7%
住まいのこと	70	4.3%	32	7.3%	22	4.4%	16	2.3%
仕事のこと	90	5.5%	50	11.4%	29	5.8%	11	1.6%
経済的なこと	174	10.7%	90	20.5%	49	9.9%	35	5.1%
近所付き合いのこと	39	2.4%	13	3.0%	9	1.8%	17	2.5%
防犯や交通安全などのこと	91	5.6%	39	8.9%	25	5.0%	27	3.9%
災害等緊急時の対応のこと	43	2.6%	9	2.1%	8	1.6%	26	3.8%
認知症のこと	45	2.8%	3	0.7%	15	3.0%	27	3.9%
移動手段のこと	67	4.1%	20	4.6%	9	1.8%	38	5.5%
家事・片付けのこと	44	2.7%	1	0.2%	19	3.8%	24	3.5%

困りごとは複合化しやすい

表２－２　現在困っていることがある人

	困りごとなし	困りごとが1つある	困りごとが複数ある
回答者全体　1638	1,119	244	275
構成比	68.3%	14.9%	16.8%

表２－３　現在困っていることが複数ある人

	2個	3個	4個	5個	6個以上
回答数　275	112	70	45	21	27
構成比	40.7%	25.5%	16.4%	7.6%	9.8%

○全回答者の16.8%、困りごとがある人の53%が、困りごとを複数抱えている。

○複合の困りごとを抱えている人の多くが「**健康のこと**」（**70.2%**）や「**経済的なこと**」（**63.3%**）を課題のひとつとして抱えている。

課題を抱える人は相談機関とつながっているか

表２－４　地域包括支援センターの認知度×「介護のこと」で困っている

		全回答者（無回答を除く）	介護のこと	
			現在困っている	将来が不安
		1530	88	718
地域包括支援センター	知っていて利用したことがある	161	28	76
		10.5%	31.8%	10.6%
	知っているが利用したことがない	676	26	322
		44.2%	29.5%	44.8%
	知らない	693	30	296
		45.3%	34.1%	41.2%

他機関に比べ、いのちネットは利用されていない？

表２－５　いのちをつなぐネットワークの認知度×「住まいのこと」「経済的なこと」で困っている

		全回答者（無回答を除く）	住まいのこと		経済的なこと	
			現在困っている	将来が不安	現在困っている	将来が不安
		1494	70	379	174	612
いのちをつなぐネットワークコーナー	知っていて利用したことがある	23	1	7	7	10
		1.5%	1.4%	1.8%	4.0%	1.6%
	知っているが利用したことがない	582	33	150	71	250
		39.0%	47.1%	39.6%	40.8%	40.8%
	知らない	889	32	206	87	331
		59.5%	45.7%	54.4%	50.0%	54.1%

３　身近な地域での支え合いについて

～情緒的・情報的サポートと道具的サポートの比較～

情緒的・情報的サポートと道具的サポート

○身近な地域での「支え合い」によって提供される支援は、「ソーシャルサポート」と呼ばれている。ソーシャルサポートは、悩みごとの相談や寂しいときに話を聞くなどの感情面の支援である**「情緒的サポート」**と、病気の時の看護、お金の援助、日常の手助けなど困ったときの具体的な手助けを意味する**「道具的サポート」**に区別できる。

○ここでは、「情緒的サポート」に、問題解決に必要な情報の提供や見守りなどを加えて「情緒的・情報的サポート」とし、**問６の身近な地域の支え合いの内容を「情緒的・情報的サポート」と「道具的サポート」に区別して再整理した。**

ソーシャルサポートの提供は、「情緒的・情報的」は無償、「道具的」は有償の希望が多い

○ソーシャルサポートの提供は、「情緒的・情報的サポート」については、「無償で提供してみたい（している）」という回答が多く、「道具的サポート」については「物品を貸したりあげたりする」以外は「有償で提供してみたい（している）」が多くなっている。

表３－１　提供したいソーシャルサポート

ソーシャルサポートの種類	支え合いの内容	有償でしてみたい（している）	無償でもしてみたい（している）
情緒的・情報的サポート	日常生活における見守りや安否確認	173	323
		10.6%	19.7%
	悩みごとや心配ごとの相談に乗る	134	238
		8.2%	14.5%
	色々な情報を伝える	103	228
		6.3%	13.9%
道具的サポート	炊事、洗濯、掃除など、家の中の家事援助	216	115
		13.2%	7.0%
	ごみ出し、買い物など、家の外の家事援助	232	166
		14.2%	10.1%
	電球の交換や住まいの小修繕	176	165
		10.7%	10.1%
	草むしりや植木の手入れ	209	159
		12.8%	9.7%
	一緒に外出する	176	148
		10.7%	9.0%
	用事があるとき家族の預かり・見守りをする	192	137
		11.7%	8.4%
	看病や介護をする	199	68
		12.1%	4.2%
	物品を貸したりあげたりする	117	208
		7.1%	12.7%

ソーシャルサポートの受領も、「情緒的・情報的」は無償、「道具的」は有償の希望が多い

○ソーシャルサポートの受領も、「情緒的・情報的サポート」については、「無料でしてほしい（してもらっている）」という回答が多く、「道具的サポート」については「物品を貸したりあげたりする」以外は「有料でもしてほしい（してもらっている）」が多くなっている。

表３－２　受領したいソーシャルサポート

ソーシャルサポートの種類	支え合いの内容	無料でしてほしい（してもらっている）	有料でもしてほしい（してもらっている）
情緒的・情報的サポート	日常生活における見守りや安否確認	517	188
		31.6%	11.5%
	悩みごとや心配ごとの相談に乗る	469	145
		28.6%	8.9%
	色々な情報を伝える	491	103
		30.0%	6.3%
道具的サポート	炊事、洗濯、掃除など、家の中の家事援助	180	371
		11.0%	22.6%
	ごみ出し、買い物など、家の外の家事援助	189	321
		11.5%	19.6%
	電球の交換や住まいの小修繕	251	346
		15.3%	21.1%
	草むしりや植木の手入れ	213	415
		13.0%	25.3%
	一緒に外出する	172	182
		10.5%	11.1%
	用事があるとき家族の預かり・見守りをする	182	363
		11.1%	22.2%
	看病や介護をする	155	464
		9.5%	28.3%
	物品を貸したりあげたりする	278	163
		17.0%	10.0%

４　地域福祉活動の課題について

～まちづくり活動との比較～

「まちづくり系活動」と「福祉系活動」

○本調査の**問10「様々なボランティア活動についてどう思いますか」**で「ボランティア活動の内容」として9つの活動が挙げられている。このうち「まちづくりや安全な生活のための活動」「美化や清掃に関係した活動」「自然や環境を守るための活動」「災害に関係した活動」を**「まちづくり系活動」**とし、「高齢者を対象とした活動」「障害のある人を対象とした活動」「子どもを対象とした活動」を**「福祉系活動」**として比較を行った。

○なお、両分野の重なりを調べると、「福祉系活動」経験者の4人に3人は、「まちづくり系活動」も経験していることがわかった。

表４－１ 「福祉系活動」と「まちづくり系活動」の経験者の重なり

まちづくり系活動のみ経験者	324	46.6%
福祉系活動のみ経験者	90	12.9%
両方経験者	282	40.5%
合計	696	100.0%

「福祉系活動」は参加・継続のハードルが高い

表４－２　活動を始めるとき・続けるときの支障

○「まちづくり系活動のみ」と比較すると、「福祉系活動のみ」と「両方経験者」の方が、参加・継続のハードルが高いと考えている人が多い。

		地域づくり・まちづくり系活動のみ経験者		福祉系活動のみ経験者		両方経験者	
興味・関心がもてない	始めるときの支障	135	41.7%	41	45.6%	133	47.2%
	続けることの支障	53	16.4%	25	27.8%	53	18.8%
時間的な余裕がない	始めるときの支障	141	43.5%	47	52.2%	123	43.6%
	続けることの支障	127	39.2%	37	41.1%	127	45.0%
経済的な余裕がない	始めるときの支障	106	32.7%	44	48.9%	119	42.2%
	続けることの支障	118	36.4%	34	37.8%	102	36.2%
健康や体力面で余裕がない	始めるときの支障	153	47.2%	41	45.6%	146	51.8%
	続けることの支障	133	41.0%	46	51.1%	120	42.6%
一緒に活動する仲間がいない	始めるときの支障	117	36.1%	42	46.7%	128	45.4%
	続けることの支障	53	16.4%	23	25.6%	69	24.5%
情報を入手したり交換したりする機会がない	始めるときの支障	129	39.8%	50	55.6%	139	49.3%
	続けることの支障	40	12.3%	13	14.4%	44	15.6%
どうやって始めれば良いのか分からない	始めるときの支障	150	46.3%	55	61.1%	160	56.7%
	続けることの支障	34	10.5%	9	10.0%	37	13.1%
人付き合いが苦手、またはわずらわしい	始めるときの支障	131	40.4%	43	47.8%	172	61.0%
	続けることの支障	59	18.2%	22	24.4%	71	25.2%
家族環境（結婚、出産、介護など）	始めるときの支障	98	30.2%	35	38.9%	102	36.2%
	続けることの支障	87	26.9%	30	33.3%	103	36.5%
活動のために資格や研修が必要となる	始めるときの支障	124	38.3%	45	50.0%	127	45.0%
	続けることの支障	39	12.0%	12	13.3%	52	18.4%
ボランティア活動中のトラブル	始めるときの支障	50	15.4%	16	17.8%	51	18.1%
	続けることの支障	134	41.4%	43	47.8%	146	51.8%

活動タイプによって異なる活性化の方法

表４－３　活動を活性化するために必要な方法

	まちづくり系活動のみ経験者		福祉系活動のみ経験者		両方経験者	
自治会や町内会などの地縁団体の活性化を図る	144	44.4%	28	31.1%	146	51.8%
祭りやイベントへの参加者から地域活動の担い手の掘り起こしを図る	106	32.7%	31	34.4%	123	43.6%
地域住民が地域の課題や解決策について話し合う	63	19.4%	17	18.9%	78	27.7%
地域活動に関する情報が入手しやすい仕組みを充実させる	122	37.7%	43	47.8%	114	40.4%
他世代間の積極的な交流の場を充実させる	96	29.6%	35	38.9%	108	38.3%
目的や組織、運営が異なる地縁団体や活動団体の協働を図る	39	12.0%	12	13.3%	46	16.3%
地域課題と手助けとなるボランティアや活動団体とのマッチング	80	24.7%	32	35.6%	86	30.5%
企業が地域貢献活動に取り組む	61	18.8%	22	24.4%	66	23.4%
福祉事業者が地域貢献活動に取り組む	35	10.8%	16	17.8%	37	13.1%
活動者へ報酬を支払う	93	28.7%	31	34.4%	85	30.1%
ICTを活用した活動を充実させる	17	5.2%	11	12.2%	26	9.2%

まとめ

わかったことと、今後の取組への示唆

1　社会的孤立について

・受領的サポート欠如型孤立の現状を確認できた

・高齢者の男性が多いが、1人暮らしとは限らない

　→見守り活動の見直し

2　様々な課題を抱える人たち

・課題を抱える人の半数以上が複数の課題を抱える

　→課題の「複合化」の現状を把握できた

・包括的な相談窓口としての「いのちネット」の役割について再検討が必要

わかったことと、今後の取組への示唆

３　身近な地域での支え合いについて

・道具的サポートの提供・受領は、「有償」を希望する人の方が多く、情緒的・情報的サポートの提供・受領は、「無償」を希望する人が多い。

→道具的サポートの提供・受領のために、有償ボランティアの仕組みを検討し、普及させることが必要

４　地域福祉活動の課題について

・まちづくり系活動と連携し、参加のハードルが低いまちづくり系活動を「入口」にすることが有効

・福祉系活動には、情報提供や協力できる団体とのマッチングなど、よりきめ細かな支援が必要